

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、九月九日に比奈の竹採公園で行われる「姫名の里まつり」に向けて、中心になって活動している実行委員会の皆さんを紹介します。

姫名の里まつり

実行委員会

実行委員会は、吉永地区の町内会が主体となり、生涯学習推進会、婦人会、花の会、PTA、ボランティアグループなどの各種団体の皆さんにより構成されています。事前の打ち合わせや、当日の準備、会場内外の整備など、実行委員の皆さんの活躍により、姫名の里まつりは支えられています。

姫名の里まつりは、かぐや姫が昇天したといわれる中秋の名月にあわせて毎年行われており、ことしで第十回目を迎えます。第一回目のお祭りでの催し物は、第六天太鼓と大龍の舞だけ



▲姫名の里まつりのクライマックス「かぐや姫伝説」

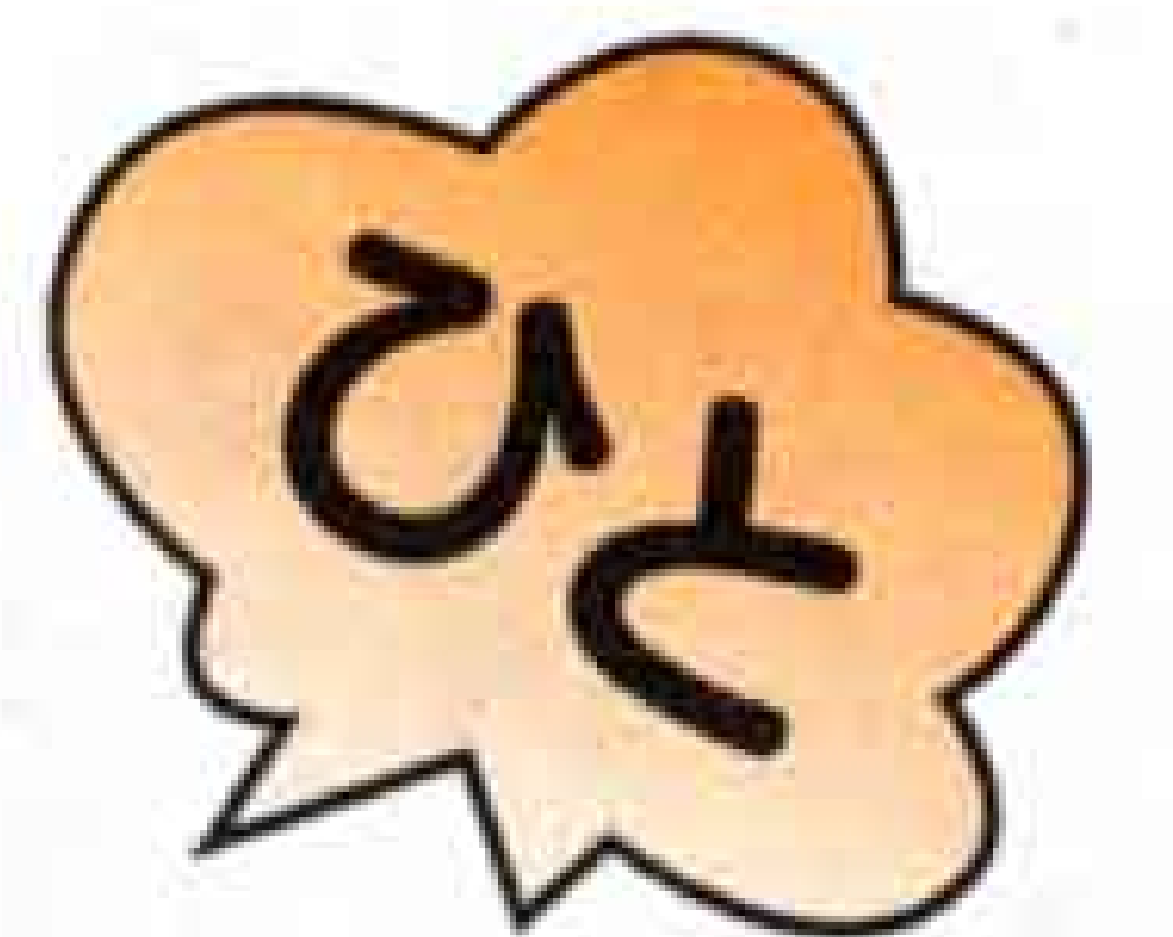


▲実行委員会の皆さん

でしたが、年を追うごとに催し物もふえ、三年前からは、吉原東中学校の生徒によるかぐらや太鼓の演技も行われるようになりました。

ことしは、第六天太鼓に「姫名太鼓」という女性だけの太鼓の演技が新たに加ります。

吉永地区まちづくり推進会議長の荻野貞良さんは、「お客さんの数は年々多くなっています。催し物もふえたせいか、最近では会場が狭くなってきました。このようにお祭りが大きくなったのも、これまでお祭りに携わってきた皆さんの努力の積み重ねによるものだと思います。会場の広さや時間的な問題もあり、新たな催し物をふやすことは難しいのですが、新しいものがあるればどんどん掘り起こして取り込んでいきたいと思っています」と話してくれました。



世界ハーモニカ連盟日本支部
ハーモニカコンテストで総合グランプリを受賞

小林 正人さん

(吉原4丁目)



現在、小学校教諭である小林さんは、音楽の授業や病院の慰問コンサートなどで演奏をしています。

小林さんは「よい先生方めぐり会い、ハーモニカとも縁がありました。今では、家族や仲間たちから励まされ、応援されながら続けています。

ハーモニカには、さまざまな音色があります。演奏者によっても音色が違いますよ。私もやっと、自分の音色というものができてきました。

自分の演奏を多くの人に喜んでもらえると、音楽をやっていると本当によかったなあと思います。聞いている人たちが喜んでくれるような曲を取り入れて、いろいろなジャンルで幅広く演奏をしていきたいです。八十歳、九十歳になっても、ずっとハーモニカを続けたいですね」と話してくれました。



▲総合グランプリの表彰式